

# 1966年

日本では人口が一億を突破、新東京国際空港の建設地が成田三里塚に決定した年。中国では「文化大革命」が広がり、北京などに紅衛兵が登場、作家の老舎が紅衛兵の迫害を受けて入水した。両国の共産党が関係を断絶、わが国の日中友好協会が分裂したのもこの年だった。厳しい内外情勢の中、前進座の訪中公演、出版、民族芸能、スポーツなど代表団の訪中、中国映画代表団の来日、天津歌舞団、北京歌舞団の日本公演が行なわれた。



初の日本出版代表団が訪中 この大型代表団の訪中は、その後の日中出版印刷交流の道を切り開き、その交流は現在まで絶えることなく継続している。(右から)徳間康快徳間書店社長、団長の野間省一講談社社長、下中邦彦平凡社社長、相賀徹夫小学館社長、副団長の岩波雄二郎岩波書店社長

一九六六年五月 八達嶺・万里の長城

## 六六年の主な交流

- ◎1月 「中国二千年の美」展名古屋展開幕。日本スピードスケート選手団(倉町太郎団長)訪中。
- ◎2月 「中国現代書道展」(東京都美術館)開催、主催が当協会と毎日新聞社。「中国現代画展」(東京都美術館)開催、主催が当協会と日本美術会。魯迅逝世三十周年記念会(代表世話人・亀井勝一郎氏)発足。
- ◎3月 日本民族芸能家代表団(岡本文弥団長、田辺南鶴、岡本そめ八、渡辺浩風、岡本清恵らの諸氏)訪中。日本バスケットボール選手団(牧山圭秀団長)訪中。中国バレーボール選手団(張之槐団長)来日。
- ◎4月 「白石石展」開催(京王デパート)、主催が当協会。中国映画代表団(団長・岳林、団員・成蔭、張瑞芳らの諸氏)来日。
- 朝日テレビニュース取材班(館公明、吉岡秀夫、甲原安記、栗林剛三の諸氏)訪中。中国語教育者研究者日本代表団(藤堂明保団長、香坂順一、芝田稔、伊地智善継、長谷川良一の諸氏)訪中。中国人民対外文化協会が中国人民対外文化友好協会に改称。中国写真家代表団(呉印咸団長、呉群、徐敏、呂相友、耿墨学的諸氏)来日。日本出版代表団(団長・野間省一講談社社長、副団長・岩波雄二郎岩波書店社長、秘書長・白土吾夫日中文化交流協会事務局長、相賀徹夫小学館社長、下中邦彦平凡社社長、石山四郎グイヤモンド社副社長、徳間康快徳間書店社長の諸氏)訪中。
- ◎5月 日本教育テレビ取材班(萩原幸子、渡辺恵子らの諸氏)訪中。中国美術史研究日本学術代表団(白石凡団長、米沢嘉圃、杉村勇造、小山富士夫、関野雄、鈴木敬、町田甲一、林巳奈夫、飯高和子の諸氏)訪中。京都工芸美術家代表団(浅見隆三団長、依田義賢副団長、叶光夫、佐野猛夫、皆川泰蔵、坪井明日香、土江澄男の諸氏)訪中。
- ◎6月 六三年に三菱仲十二号館からの移転に続き、当協会の事務所が丸の内千代田ビルから有楽町一丁目の有楽町ビルディングへ。記録映画「夜明けの国」撮影準備に、岩波映画撮影隊(高村武次、吉原順平、時枝俊江の諸氏)訪中。日本臨済宗訪中使節団(古川大航名誉団長、山田無文団長)訪中。中島健蔵理事長・京子夫人訪中、「日中両国人民間の文化交流に関する共同声
- 明」に調印。アジア・アフリカ作家会議日本協議会代表団(白石凡団長、由起しげ子、西園寺公一、白土吾夫、依田義賢、霜多正次、松岡洋子、窪田精らの諸氏)訪中、北京で中島理事長と合流、毛沢東主席と会見。日本陸上競技連盟の河野謙三会長、青木半治理事長、日本水泳連盟の田畑政治名誉会長(当協会常任理事)、奥野良会長らの諸氏訪中。
- ◎7月 日本男子自転車選手団(月岡朝太郎団長)訪中。横浜市少年サッカー選手団(浅沢直人団長)訪中。
- ◎8月 岩波映画製作所の長編記録映画「夜明けの国」取材のため、時枝俊江、坂口康、藤瀬季彦、渡辺重治の諸氏訪中。日本美術家代表団(宮川寅雄、向井潤吉、杉本健吉、西山英雄、五味充子らの諸氏)訪中。日本卓球選手団(後藤鉦二団長)訪中。日本陸球選手団(長谷川寛治団長)訪中。日本アマチュアレスリング協会会長の八田一朗氏訪中。バレーボールの大松博文氏訪中。前進座が二度目の訪中公演、演目は「五重塔」「ひげやぐら」「巷談本牧亭」、メンバーは団長・河原崎長十郎、副団長・中村翫右衛門、河原崎しづ江、顧問・伊藤薫朔、團伊玖磨らの諸氏七十三名。
- ◎9月 中国男子ハンドボール選手団(劉夫洪団長)来日。
- ◎10月 講談社から、当協会協力の豪華本『西安碑林』が刊行。日本レスリング選手団(山口久太団長)訪中。
- ◎11月 亀井勝一郎副理事長が十一月



**日本スポーツ界の首脳が訪中** 当時は各種目の国際競技連盟が中国との交流に厳しい制限をしていた時期であり、一行の訪中は画期的なものとして注目された。廖承志中日友好協会会長(右一)、廖夢醒氏(左三)と歓談する河野謙三陸連会長(左一)、田畑政治水連名誉会長(左二)、青木半治陸連理事長(左四)の諸氏  
——1966年6月



**二度目の前進座訪中公演** “巷談本牧亭”公演の後、周恩来総理(右)は舞台に上がり公演の成功を祝った。周総理と握手する河原崎長十郎団長(中)、中村翫右衛門副団長。北京・首都劇場で  
——1966年9月

**〈右〉中国語教育者研究者の代表団が初めて訪中** 一行は一カ月にわたり、中国の文字改革の現状、教育、研究機関などを参観し、懇談した。郭沫若氏(左三)と会見する(右へ)藤堂明保、香坂順一、芝田稔、長谷川良一の諸氏と伊地智善継氏(左一)



——1966年5月 北京

**中国映画代表団を招請** 長春映画製作所所長の岳林団長(左二)、俳優の張瑞芳氏(右二)を歓迎する高峰秀子氏(左三)、安藤鶴夫氏(左一)ら



——一九六六年五月六日 東京



**初めての中国写真家代表団が来日** 一行は、農村や漁村にも積極的に足を運んだ。秋田県の民族歌舞団わらび座を訪れた一行。左端が呉印成団長

——1966年5月14日 わらび座付近の田圃で

十周年は盛大な祝賀行事があつてし  
かるべきだったが、それはなかった。  
亀井勝一郎副理事長が痛に冒され、す  
でに重篤と知らされたからだ。心  
ひそかに、後事を君に託することさえ  
考えていた中島理事長は、氏の功勞  
を多とし、回復まで祝賀を延期した。  
そして十一月、五十九歳で氏は逝つた。  
厳しい環境の中で、なぜ、何のため、  
誰のため、日中の友好、文化交流をや  
るのか。確固とした信念をもって過去  
の歴史と向き合い、中国を日本人の「思  
想と造型の母国」と説く亀井氏は、協  
会のもとに集つたみんなの心の依りど  
ころでもあった。早すぎる旅立ちが、  
今も悔やまれる。

(九十九)

十四日、食道ガンの肝臓転移のため逝  
去、五十九歳。

創立十周年にあたるこの年、  
事務所が丸の内から有楽町の有  
楽町ビルディングへ移転した。当  
時の役員や九人いた事務局員が  
「日本中国文化交流協会」と扉に書かれ  
た事務所に入ったとき、喜びと感謝の  
気持ち胸にあふれ出たのを思い出す。  
なぜなら、創立時の丸の内・三菱仲十  
二号館、その後の千代田ビルの事務所  
は、日中貿易をてがける白水商会(白  
水実社長)の好意で使わせていただい  
たもので、部屋の扉にはずっと「東邦  
商会文化部」の名が書かれていたから  
である。